

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 折尾西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

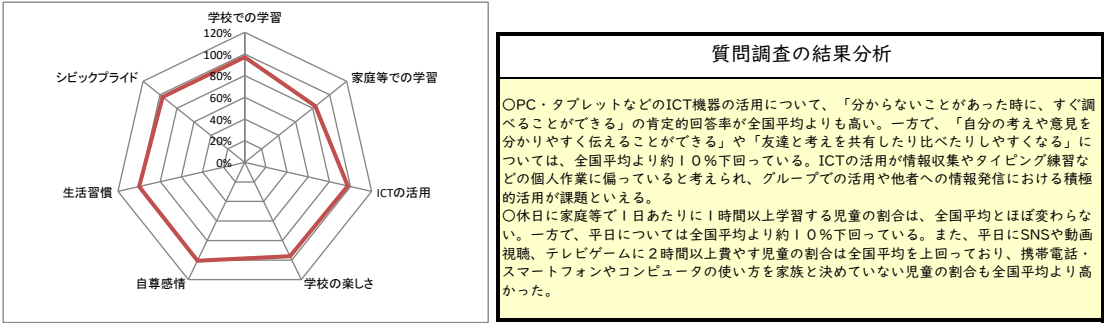
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○全国平均を全体的に上回っている。選択式の問題よりも短答式・記述式の問題のほうが全国平均との差が大きく、書く活動を日常的に取り入れてきた成果がうかがえる。 ○「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の正答率は全国平均を上回っているが、漢字の書き取り問題の一部で、正答率が全国平均を下回るものがあった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	◎「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題」や「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題」では、正答率が全国平均を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	●「紹介する内容をメモにどう整理したのかについて説明したものとして、適切なものを選択する問題」では、全国平均との開きが最も大きい。目的や意図に応じて日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することには、課題が見られる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	○「知識・技能」に関する内容、「思考力・判断力・表現力等」に関する内容ともに、全国平均をやや下回っている。特に「データの活用」の領域において課題が見られる。 ○全体的な無解答率は全国平均を下回っており、問題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢が少しずつ定着してきている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	◎「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる問題」において、正答率が全国平均を大きく上回った。	
	努力が必要な問題	●「 $350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く問題」では、全国平均との開きが最も大きい。計算に関して成り立つ性質を活用して計算の仕方を考察することには、課題が見られる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○各担任が『『学びの質を高める授業』づくり5つのポイント』の『『考えを深める』話し合う活動と書く活動』を特に意識し、ペア学習やグループ学習の導入、自分の考えを自分の言葉で書く場面の設定を進める。 ○児童が活字に触れて言葉の力を一層高められるよう、音読や読書に関する取組の充実、辞書を用いた意味調べの推進を図る。 ○単元末に復習プリントやドリルアプリを活用し、基礎的な内容を確実に理解できるようにする。また、応用力を高めるために、別解を考えたり、生活場面での活用を想起したりするよう促す。 ○グループ活動で多様な考えの共有や比較、他者への情報発信を円滑に進められるよう、GIGA端末を積極的に活用する。また、ICTサポーターによる支援を進め、GIGA端末の有効活用を図る。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

○「折尾西小学校のきまり」を職員間で繰り返し確認し、児童の規範意識を高める指導に取り組む。 ○望ましい生活習慣や家庭学習について、学級活動の時間に見通しをもつ機会を設定したり、学校通信等で保護者へ啓発したりして、一層の充実を図る。また、児童の継続的な取組を称賛して、自ら学ぶ意欲を高められるようにする。 ○情報リテラシーの学習を継続し、自他を傷つけない活用の仕方や活用時間の妥当性について児童が主体的に考え、家庭でのルールづくりとその遵守に努められるようにする。
